社会科

社会とつながり、自分を拓く社会科授業

～生徒の『自己実現』を促す「問い」と「選択」の単元構成～

長岡市立南中学校

本多　紘司

本実践は、中学 3 年公民の「現代の民主政治」において、生徒の政治的無力感を克服し「自己実現」を促すことを目指して行った。目指した生徒の姿は、自身の価値観に気づく「自己発見」、社会を創る一員としての「当事者意識」、そして「効率」「公正」などの視点を武器に自ら判断・選択する「自己決定」の 3 つを実現した姿＝自己実現の姿である。この姿を実現するため、以下の 2 つの手立てを講じた。

1 つ目が、思考ツール（「座標軸」「ランキング」）を活用した判断基準の可視化。2 つ目が現実の政策課題「消費税 1%引き下げ」を教材とした意思決定の機会設定である。具体的な授業実践として、まず単元冒頭で思考ツール「座標軸」を用い、「効率」「公正」などの政策を評価する視点を養った。 終盤の 6・7 時間目には「消費税 1%引き下げ」を題材に設定した。生徒は、消費者、政府、事業者という異なる立場の損益を整理し、 短期的な利益だけでなく「社会保障資金の減少」や「2 年後の反動リスク」といったデメリットまで比較検討した。 その上でグループ議論を行い、各立場への影響とリスクを踏まえた根拠ある意思決定を行った。

成果として、単なる好き嫌いではなく、多角的な視点やリスクを見極めて根拠をもった一票を選ぶ「主権者意識」の高まりが見られました。 課題としては、対立する意見をすり合わせて誰もが納得できる案を創る「合意形成」への深まりや、当事者意識を長期的に維持・定着させる指導が挙げられる。